

# CSSの基礎知識

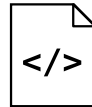
HTMLドキュメントの表示を制御するのがCSSです。ここでは、CSSの基本的な働きと書式を説明します。

## 🔴 CSSはHTMLの表示を制御するための言語

CSS (Cascading Style Sheets) は、HTML にスタイル機能を提供し、表示を制御するための言語です。HTML には表示を制御する機能がなく、フォントを変えたり、複雑なレイアウトを組んだりすることはできません。CSS を使えばHTML の表示を制御して、見た目を整形することができます。

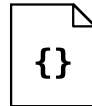
### 【HTML と CSS の違い】

文書（ページの内容）を…



HTML

- 記述できる
- ✗ 見た目の整形はできない



CSS

- ✗ 記述できない
- 見た目の整形ができる

## 🔴 CSSの基本的な仕組み

CSS は、関連する HTML ドキュメントの中から要素を選択し、その選択した要素にスタイルを適用して表示を変更します。

### 【CSS の基本的な仕組み】

HTML

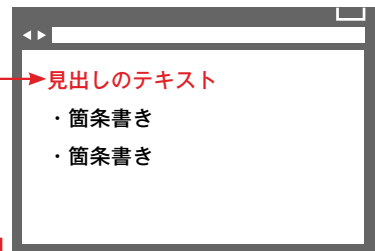
```
<h1>見出しのテキスト</h1>
<ul>
  <li>箇条書き</li>
  <li>箇条書き</li>
</ul>
```

CSS

```
h1 {
  color: red;
}
```

要素を選択

スタイルを適用



## 🔴 CSSの基本的な書式と各部の名称

次のソースは典型的な CSS 書式です。<h1> に対して背景色とテキスト色を指定しています。この例を見ながら、各部の名称と役割を説明します。



### ■ ルール (ルールセット)

ルールは、セレクターと宣言ブロックがセットになったものです。一部のプロパティ値を除き、CSSのルールはアルファベットからコロン (:)、セミコロン (;)、スペースなどの記号も含めてすべて半角で記述します。

### ■ セレクター

HTML ドキュメントから特定の要素を選択するのが「セレクター」です。セレクターには「パターン」と呼ばれる、要素を選択する条件が定義されています。図の例では、HTML ドキュメントに含まれるすべての h1 要素を選択して、宣言ブロックに書かれたスタイルを適用します。

### ■ 宣言ブロック

開始波カッコ ( { ) から終了波カッコ ( } ) までを「宣言ブロック」と言い、セレクターで選択した要素に適用するスタイルを記述します。

### ■ プロパティ

「フォントを指定する」「テキスト色を変更する」など、CSS で操作できるスタイルそれぞれに「プロパティ」が定義されています。図の例では、「background-color」「color」がプロパティにあたり、それぞれ h1 要素の背景色、テキスト色を指定します。

### ■ プロパティ値

プロパティに設定する値です。たとえば、背景色やテキスト色のプロパティであれば、値に色を指定します。プロパティとプロパティ値の間にはコロン ( : ) が必ず入ります。また、プロパティ値の後ろには必ずセミコロン ( ; ) が付きます。

### ■ 宣言 (スタイル宣言)

プロパティとその値をまとめて、「宣言」または「スタイル宣言」と呼びます。必ずプロパティとプロパティ値はセットで記述します。

## ▶ コメント文

CSS ドキュメントにコメントを残すことができます。コメント文は CSS としては解釈されず、表示にはまったく影響を及ぼしません。「/\*」から「\*/」にコメントを書きます。

### 【コメント文の例】

```
/* ここにコメントを書きます。 */
/*
コメント中に改行しても問題ありません。
*/
```

## ▶ @ルール

アットマーク (@) で始まる、セレクターのない「@ ルール」というものがあります。本書では、次の 3 種類の @ ルールを取り上げます。

### ■ @charset ルール

CSS ドキュメントの文字コードを指定するのが @charset ルールです。HTML 同様、CSS も特に理由がない限り文字コードは UTF-8 形式にします。

#### 【CSS ドキュメントの文字エンコードが UTF-8 であることを明示する例】

```
@charset "utf-8";
```

※「utf-8」は大文字でも小文字でもよい

### ■ @import ルール

通常、CSS ファイルは HTML に <link> タグを挿入して読み込みます。しかし、@import ルールを使えば、CSS ファイルから別の CSS ファイルを読み込むこともできます。

#### 【@import ルールの書式】

```
@import url(読み込むCSSファイルへのパス);
```

### ■ @media ルール

Web ページを表示している端末の画面サイズや解像度などを対象に、特定の条件を満たすときだけ適用される CSS ルールを作成することができます。そうした条件を記述するには @media ルールを使用します。

#### 【画面の横幅が 500px 以下のときだけ適用される CSS を記述する例】

```
@media (max-width: 500px) {
  /* ここにCSSルールを記述する */
}
```

## ▶ 読みやすいCSSの記述

あとでCSSを編集してデザインを少し変えたいことはよくあります。そういうときのために、CSSを記述するときは、適宜改行したり、半角スペースを入れたりして、読みやすくすることを心がけましょう。波カッコ、コロン、セミコロンの前後などに半角スペースや改行を入れます。一般的には次のように記述します。本書のCSSも同じように記述しています。

【一般的なCSSルールの記述例】

```
div.class {  
    width: 600px;  
}
```

改行  
タブ  
半角スペース  
※記号も必ず半角で入力

One  
Point

## CSSのバージョン

HTMLやCSSは、Web技術標準化団体のW3Cが仕様を策定しています。HTMLは、2014年にHTML5が正式勧告され、公式の最新バージョンとなりました。

一方のCSSは、基本的な文法や主要な機能は、1990年代末に正式勧告されたCSS2.1で定義されています。CSS2.1は断続的に改訂されていて、現在の最新バージョンは2014年9月25日に誕生したCSS2.2です。CSSは、このCSS2システムを土台として機能強化が進められています。

CSS2.1、2.2以降に提案された新しい機能もあります。こうしたCSSの新しい機能は、一般的に「CSS3」と呼ばれています。

CSSはHTMLと違い、新機能がどんどん追加されるだけで、文法や基本的な仕様が変わることはありません。バージョンを分けること自体にあまり意味がないので、本書では、CSSのバージョンには触れていません。